

<全体分析>

試験時間 2科目 150分

解答形式

記述・論述

分量・難易 (前年比較) 分量 (減少・**変化なし**・増加) 難易 (**易化**・変化なし・難化)

出題の特徴

答に至る過程を書かせる設問が増えた。

例年になく全問題が標準的な問題であった。

例年は無機の各論の出題は少ないが、今年は無機の各論の設問が増えた。(第2問II)

その他トピックス

有機で答に至る過程を書かせる設問が出題された(ほぼ理論の問題)。

近年よく出題されていた天然有機化合物と合成高分子化合物の問題が出題されなかった。

第2問Iは「東大本番プレテスト第2問I」とズバリの中!

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	I 記述,論述 計算 空所補充	理論	化学	二酸化炭素の状態変化、気体の溶解度	標準
		理論	化学	酢酸の電離平衡、緩衝液、塩の加水分解	やや易
第2問	I 記述,論述 計算	理論	化学・ 化学基礎	酸化還元反応と滴定	標準
		理論 無機	化学・ 化学基礎	ハロゲンの単体と化合物、 酸化還元反応を利用した水の定量	標準
第3問	I 記述,論述 計算	有機	化学	アルコールの脱水、アルケンの酸化	標準
		有機	化学	アゾベンゼンの幾何異性体 オレンジIIの合成と反応	標準

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

基礎力を確立するとともに思考力・応用力を養成すること。論述問題が多いので、「過去問」などを通じて、論理を明確に展開する力を付けておく必要がある。